

GSC活動レポート 2026年度版



Planning and Design Center
for Greener Ships

次世代環境船舶開発センター
2026年5月20日

目次

1. 理事長挨拶
2. GSC設立のビジョン
3. GSCの組織体制
4. GSCのミッションと業務
5. 2025年度事業の主な成果
 - 5.1 調査企画G
 - 5.2 計画設計G
 - 5.3 技術開発G
 - 5.4 成果の外部発信
6. 中期事業ロードマップ
7. GSCガバナンス体制
 - 7.1 評議員メンバー
 - 7.2 理事会メンバー
 - 7.3 運営幹事会メンバー
8. GSC会員会社一覧

1. 理事長挨拶

次世代環境船舶開発センター（GSC）も2020年10月設立以降、5年が過ぎました。新しい代替燃料適用に向けた日本造船産業の牽引役として、皆様からの御指導のもと、その骨格を整えることが出来てきております。

昨年度に引き続き、皆様にGSCの活動内容をご理解頂くため、2025年度の「GSC活動レポート」を発行することに致しました。また別紙として、この5年間の活動成果もまとめました。

ご高覧頂き、ご要望やご意見等ございましたら、何なりとお問合せ頂ければ大変有難く、対応させていただきます。

今後とも、GSCを最大限に活用して頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。



理事長 北村徹



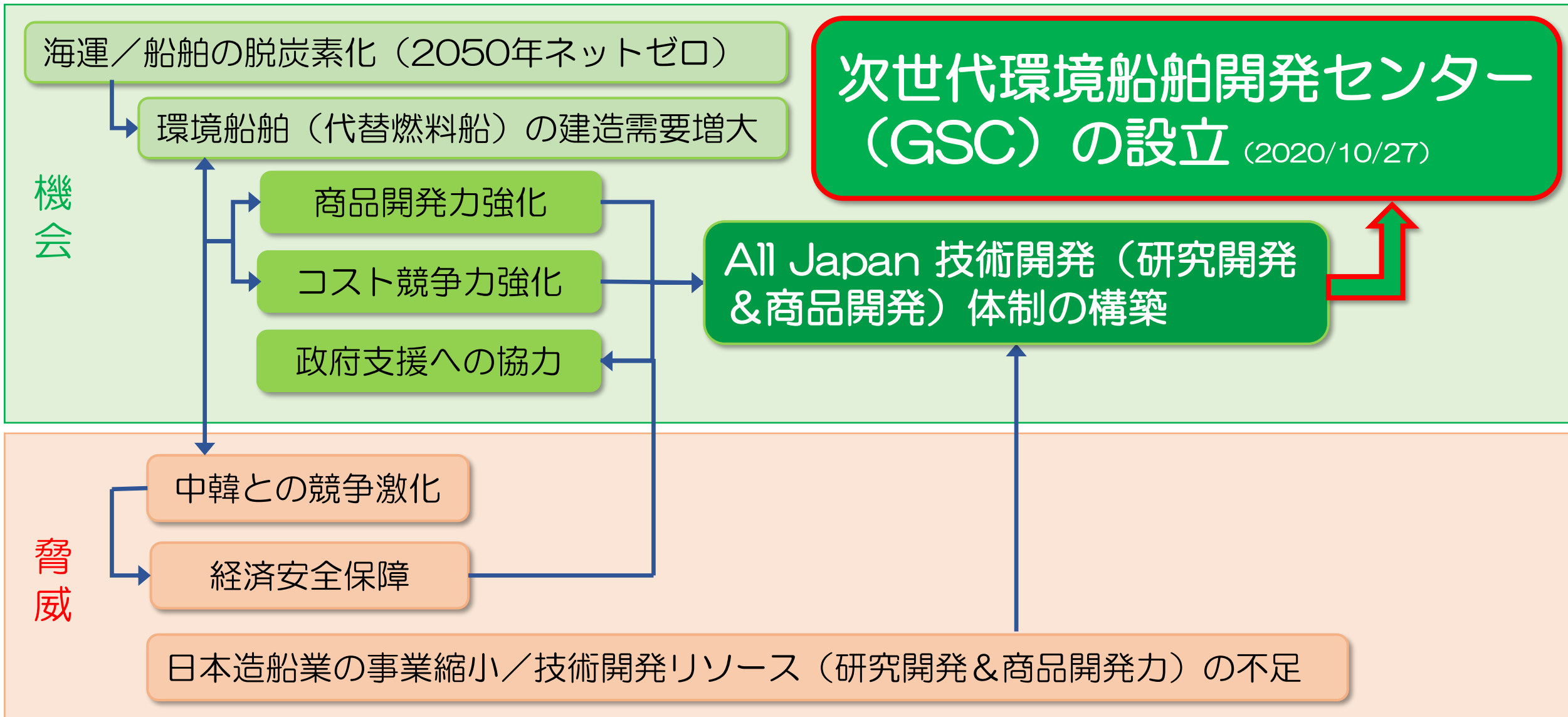
常務理事
今出秀則



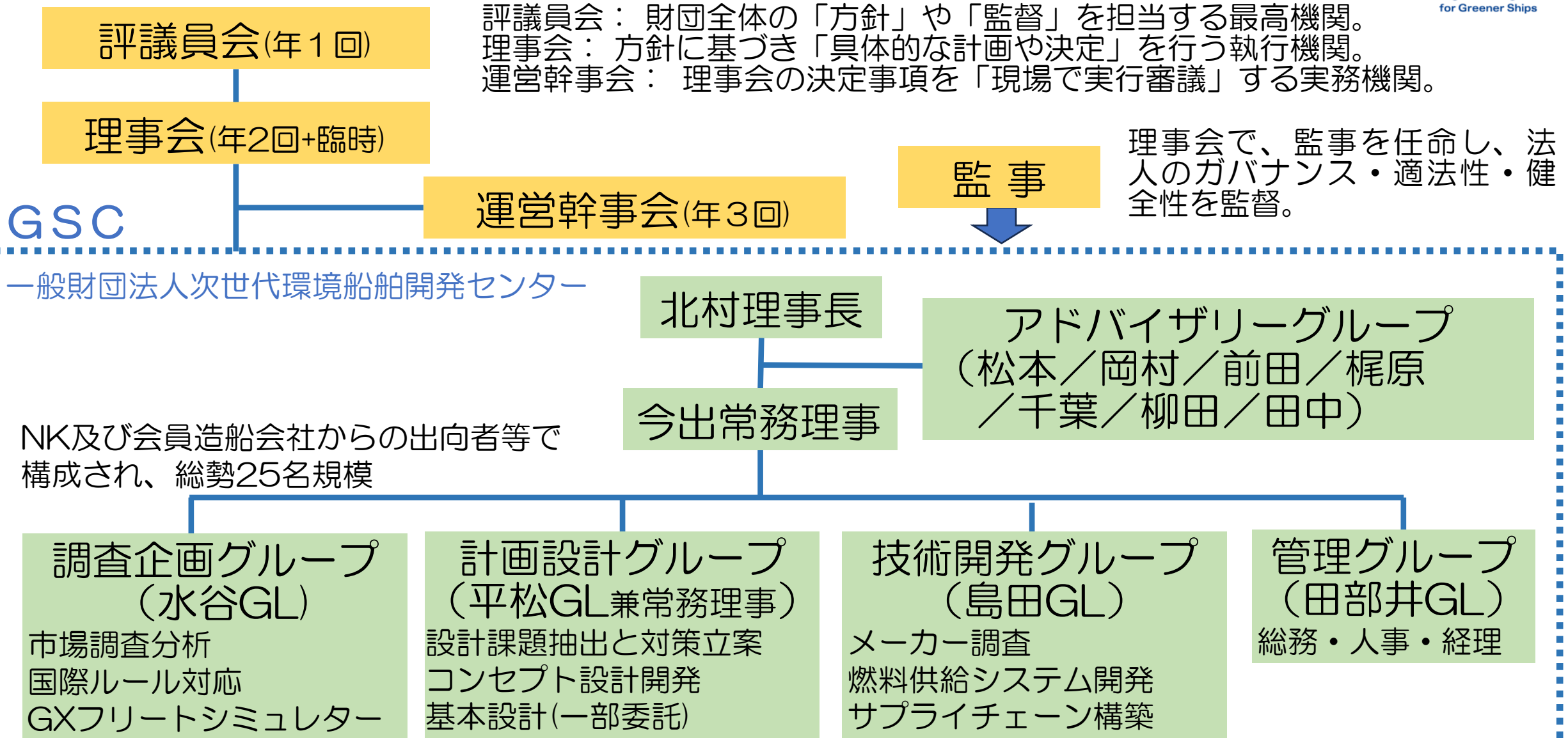
常務理事
平松彩

2. GSC設立のビジョン

【日本造船業の環境】



3. GSCの組織体制



4. GSCのミッションと業務 【外部との関係】



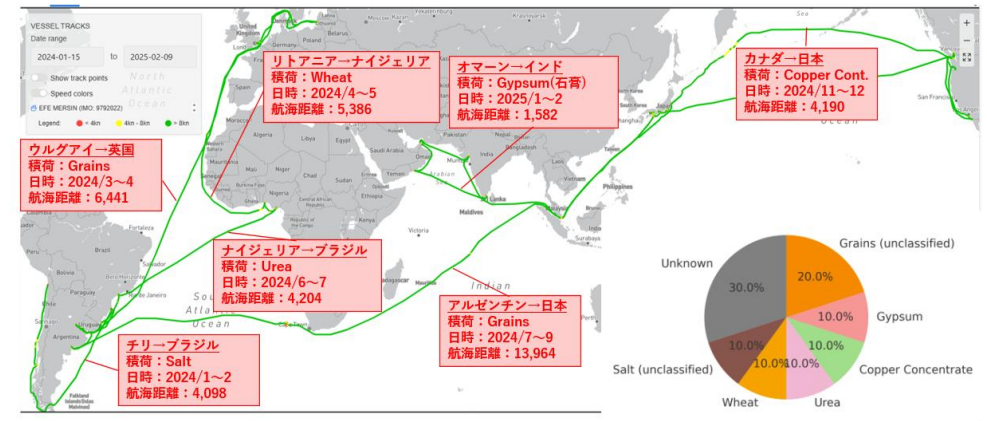
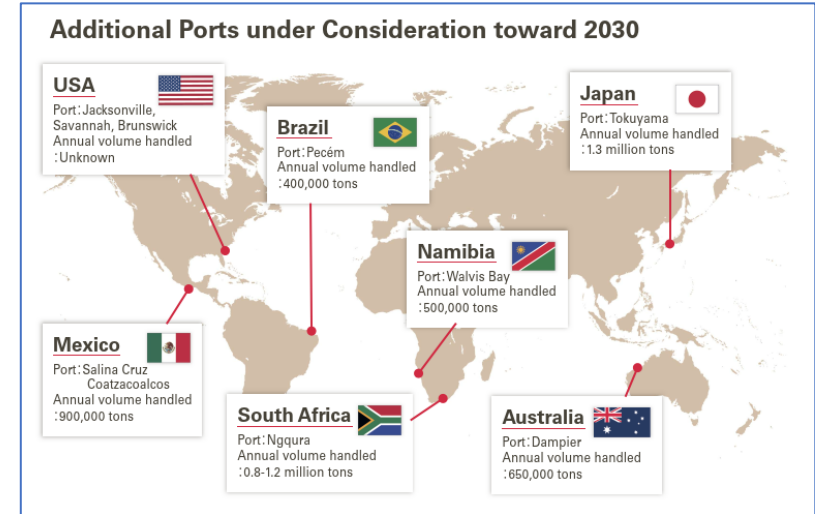
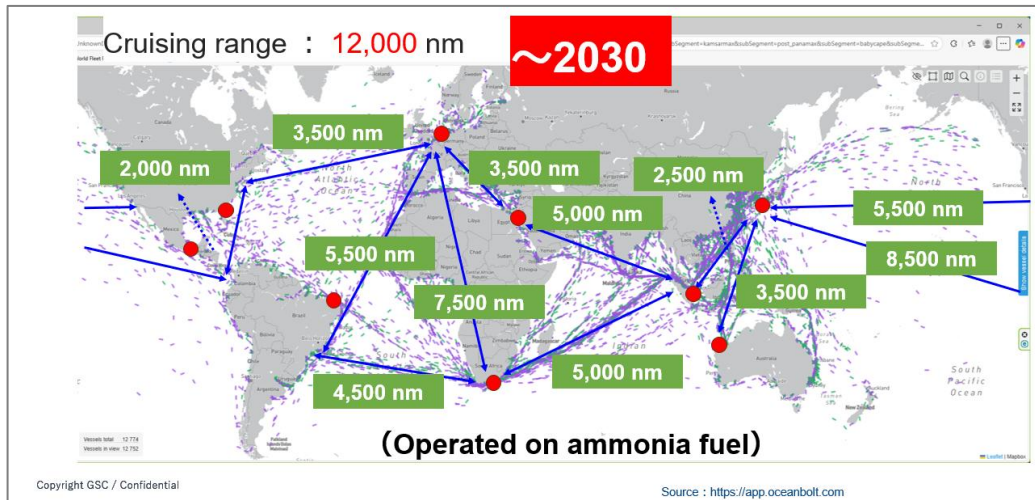
5.1 2025年度事業の主な成果【調査企画G】

1) ばら積み貨物船のゼロエミッション化シナリオ調査

目的 ばら積み貨物船、特にマイナーバルクを輸送する太宗船について、ゼロエミッション船の需要爆発のタイミングを予測する。

成果

- 主要港湾におけるアンモニア燃料供給に向けた検討・整備の段階的進展およびバンカリング対応状況の把握
- ばら積み貨物船の実運航データに基づく航路・航海距離特性の整理
- 上記を踏まえた、航続距離約12,000海里を前提とした2030年頃の対応港湾拡大と計画的燃料補給による運航実現性向上の見通しを整理

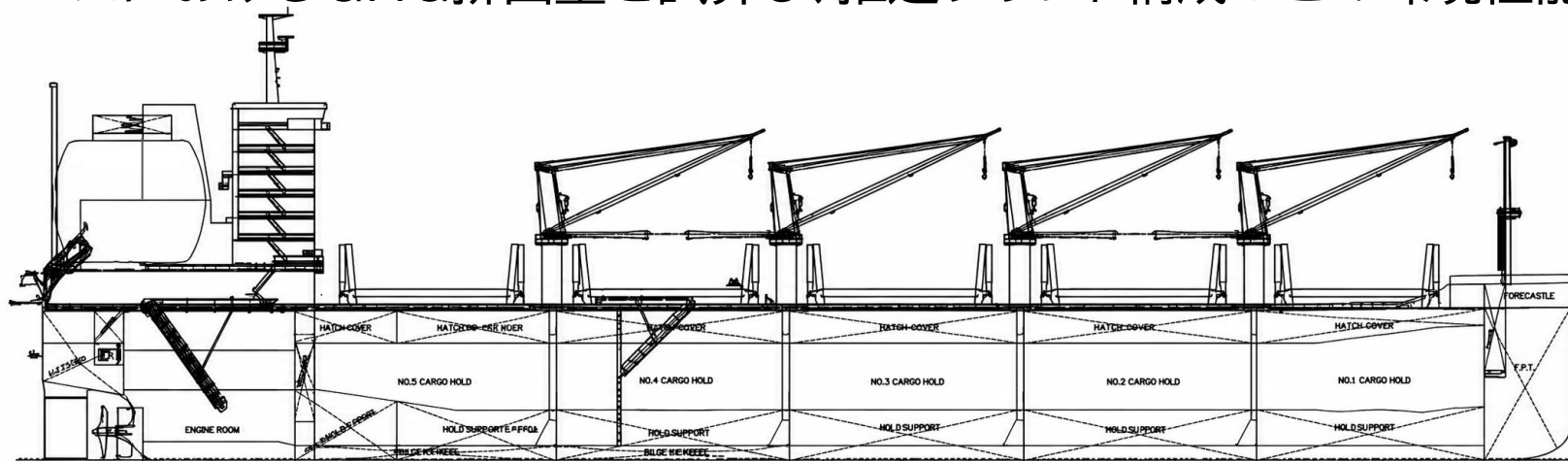


5.1 2025年度事業の主な成果【調査企画G】

2) アンモニア燃料船の標準化検討

目的 アンモニア燃料船の普及拡大と国内造船業の競争力維持を目的として、日本造船工業会の新燃料船標準化チーム活動を通じて、日本造船所の主力船型であるウルトラマックスバルカーを対象に、燃料タンク配置や燃料準備室(FPR)を含む推進プラント構成の標準化・合理化検討を推進した。

- 成果**
- a. 主機DF、発電機DF、軸発電機有無等の複数ケースを設定し、ウルトラマックスバルカー向けアンモニア燃料船の最適配置検討を実施。
 - b. 各ケースにおける燃料タンク容積(航続距離)と貨物容積の関係を比較評価し、配置上の特徴や課題を整理。
 - c. 各ケースにおけるGHG排出量を試算し、推進プラント構成ごとの環境性能を評価。



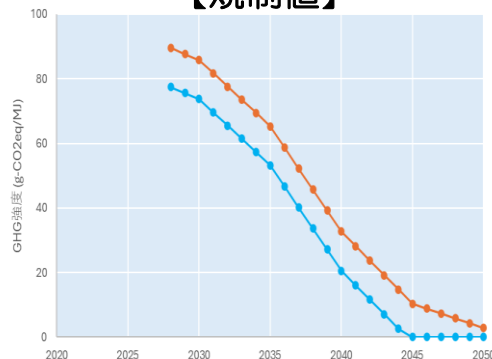
5.1 2025年度事業の主な成果【調査企画G】

3) GXフリートシミュレーターの改造

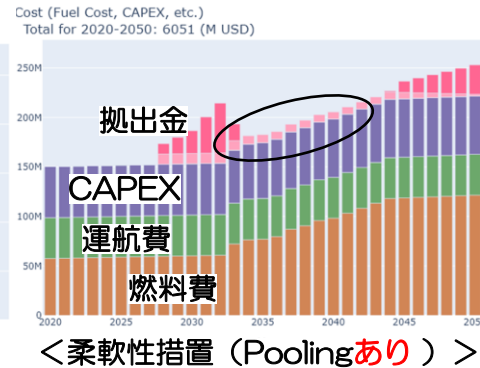
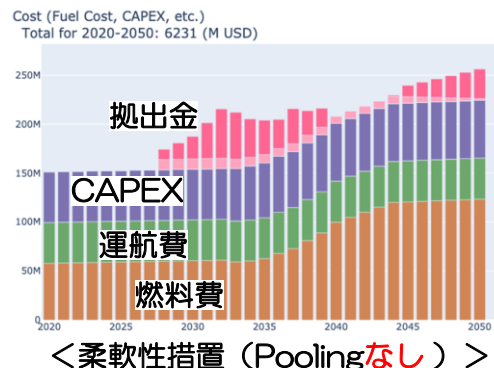
目的:ゼロエミ化へのトランジション期におけるフリート更新計画に資するシミュレーターの開発。

成果:①IMO GFI規制に対応したシミュレーションに改良

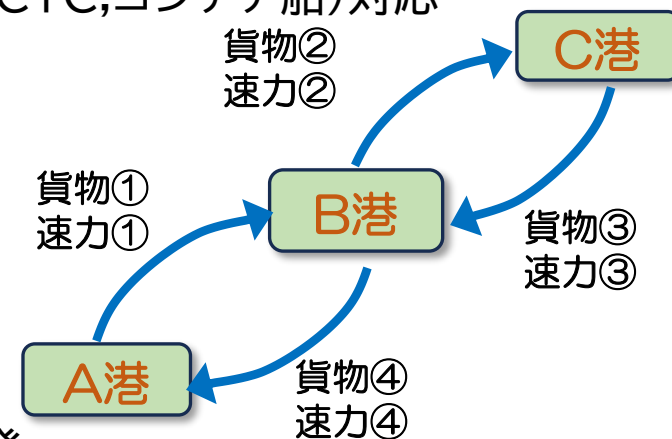
【規制値】



【コスト遷移】

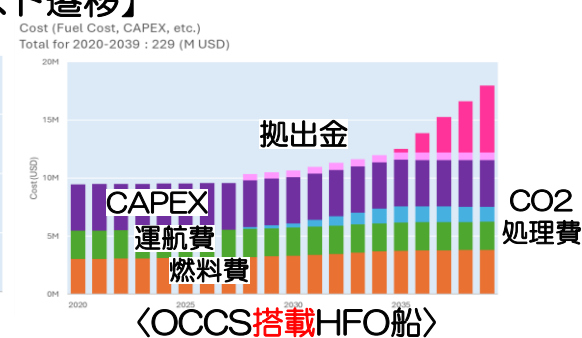
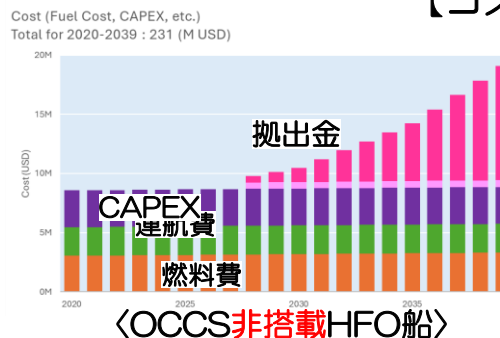


②運航形態を詳細化し多港積み/卸し
(PCTC,コンテナ船)対応

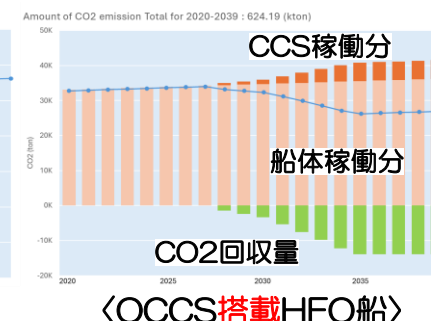
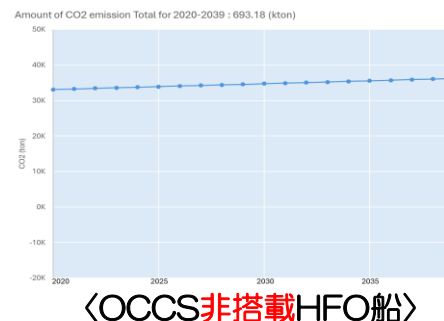


③船種の拡充として船上CO2回収装置(OCCS)搭載船に対応する機能開発

【コスト遷移】



【CO2排出量遷移】



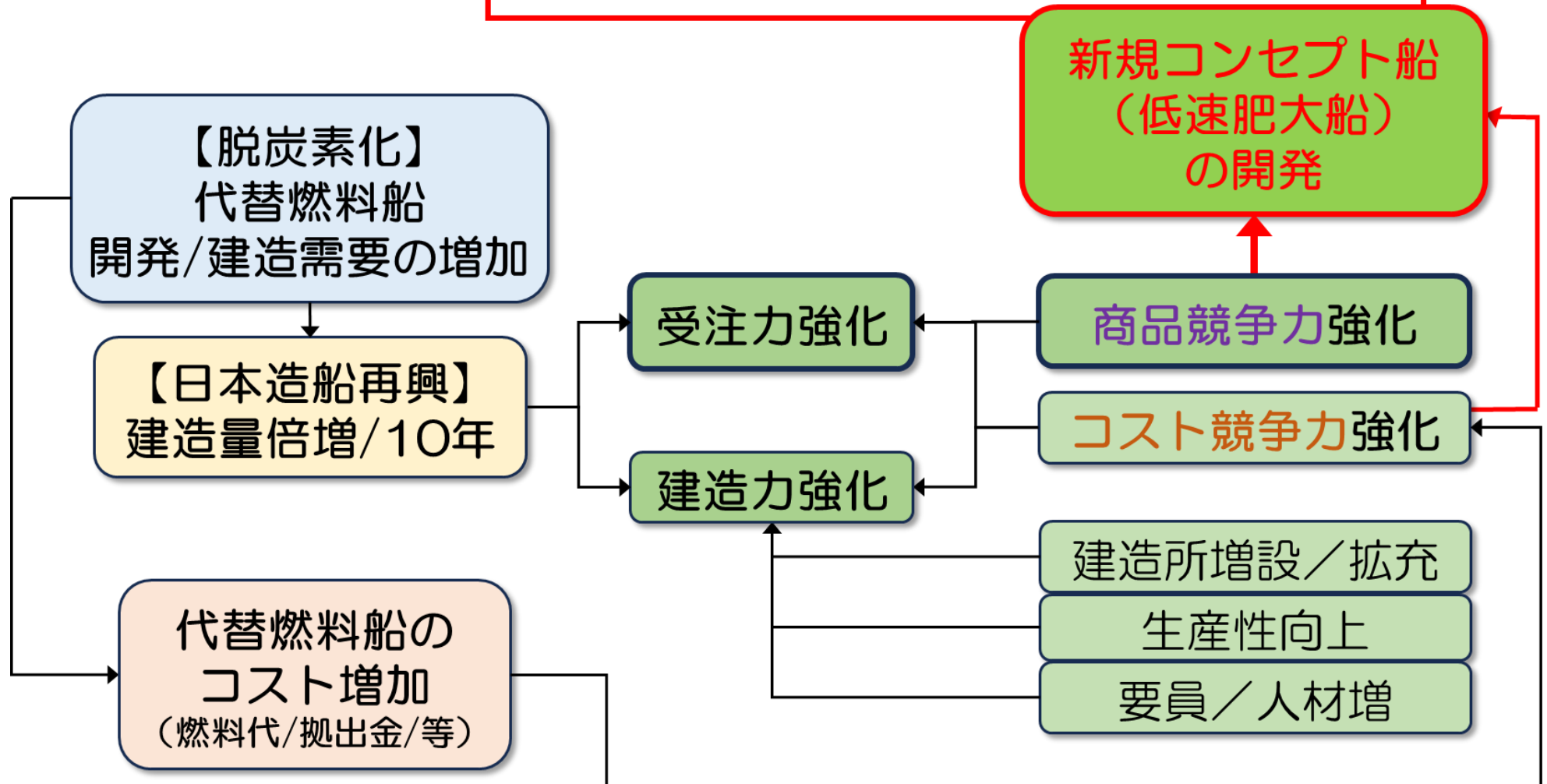
今後の予定:フリート計画への実適用によるゼロエミ船の商品企画

5.1 2025年度事業の主な成果【調査企画G】

4) 新規コンセプト船開発

【背景】

- GSC：企画/主催/出資
- 海技研技術（省エネ/推定・解析/試験）を駆使
- 造船所（JMU）による具体的開発・設計検討



5.1 2025年度事業の主な成果【調査企画G】

4) 新規コンセプト船開発

【研究成果】

＜省エネ効果＞

- 1) 最適要目低速肥大船
2) COVE
3) 風力推進システム
4) 空気潤滑システム
5) ウェザールーティング
- ← 実海域省エネ技術
↑ 運航最適化技術
- ベース船

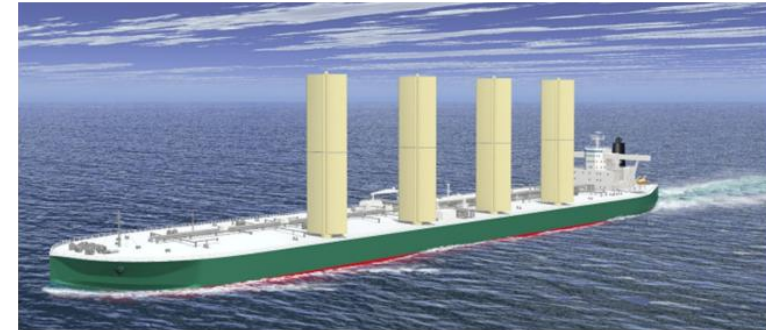
母型船＝マラッカ型VLCC (EEDI-PhaseⅢ相当)

【平水中】

△18%

【実海域】

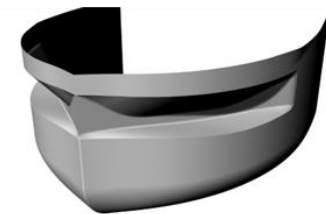
△12%



【総合評価】

- ・母型船とベース船（新規コンセプト船）で年間輸送量は同一
- ・COVE：波浪中抵抗増加低減船首形状、
風力推進システム：硬翼帆、空気潤滑システム：ブロー動力＝軸発
- ・実海域航路＝中東-極東：北米-インド＝80%：20%
- ・省エネ効果は、実海域運航時の、トン・マイル当たりのCO₂排出量（エネルギー効率指標）で評価

△ 30%



COVE

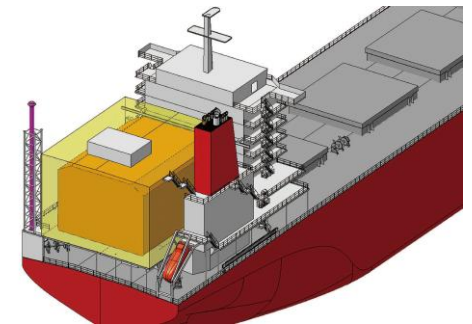
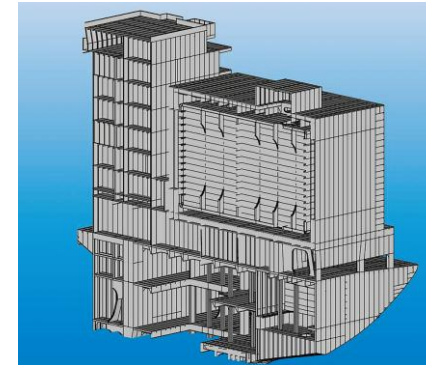
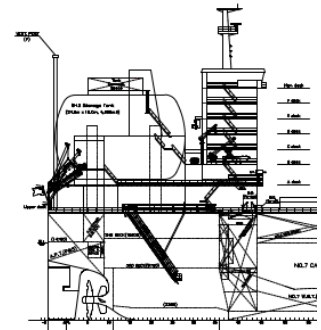
新規
コン
セ
プ
ト
船

5.2 2025年度事業の主な成果【計画設計G】

1) 通常居住区配置 NH3燃料タンク搭載船の開発

目的 最船尾居住区配置のパナマックスBCに加えて、
通常居住区配置のパナマックスBCについてもアンモニアDF船の基本設計を行う
デッキ置きIMOタイプCタンクとIMOタイプB方形タンクの両方について検討を行う

- 成果**
- a. IMOタイプC NH3燃料タンク船の基本設計は、IMO暫定ガイドライン要求を織り込み、Full Spec.メッシュで仕様・配置を検討、各種図面を作成した
 - b. デッキ置き IMOタイプB 方形NH3燃料タンク コンセプト設計を実施し、船級協会(NK)よりAiPを取得した

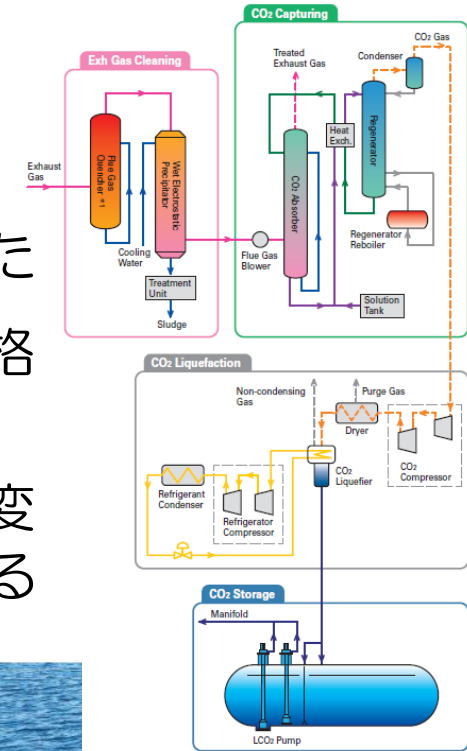


5.2 2025年度事業の主な成果【計画設計G】

2) 船上CO2回収貯蔵システム (OCCS) 搭載船の開発

目的 最船尾居住区配置のパナマックスBCのレディ船のオプションを追加する燃料油(FO)専焼で船上CO2回収設備(OCCS)を設置する船の検討を行う

- 成果**
- a. 現状のOCCSのさらなる高効率化(投入燃料減)と配置の検討を実施した
 - b. 他新燃料との経済性比較評価を実施し、環境規制動向や新燃料の価格次第ではOCCSが有利となる可能性があることを確認した
 - c. レディ船3つ目の改造先として、OCCS搭載を考慮した場合の設計変更度を確認し、2つのシナリオでMulti-Readyとして成立が見込めることを確認した



Source: Mitsubishi Shipbuilding Co., Ltd.
*1: In addition to cooling, the quencher performs particulate removal and desulfurization to meet the requirements of the CO2 capture system.



5.2 2025年度事業の主な成果【計画設計G】

3) IMOアンモニア燃料船暫定ガイドライン設計への影響評価

目的 2024年12月に採択されたIMOアンモニア燃料船暫定ガイドラインが、強制コード化する前に、設計に与える影響を評価し、要すれば、改正提案を作成する

- 成果**
- a. 基本設計実施済アンモニア燃料船を対象に、ガイドライン適用に伴う仕様への影響度把握(最船尾居住区P'max BC/Feeder CS)、及び設計見直しを行ない、変更が必要となる図面の改正(P'max BC)を行った
Feeder CSの図面改正は2026年度に実施予定
 - b. 拡散シミュレーションについては放出源の整理、漏洩シナリオの構築、船級協会との協議を実施した
シミュレーション計算及び実施手引書作成は2026年度に実施予定



5.3 2025年度事業の主な成果【技術開発G】

1) 触媒式アンモニア放出緩和装置 (ARMS) の開発

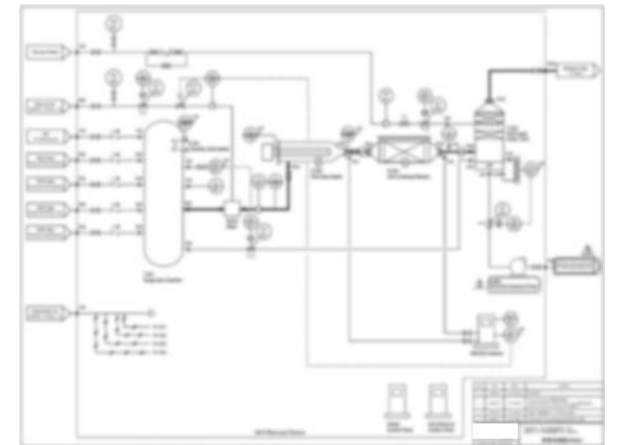
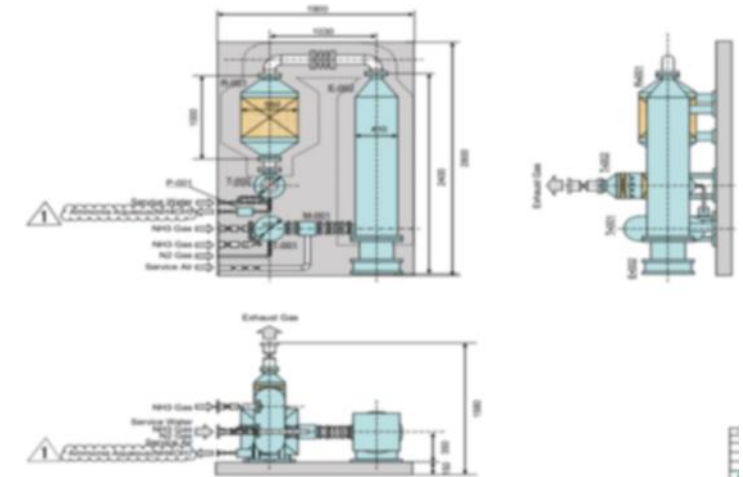
目的 触媒式アンモニア放出緩和装置 (ARMS) の開発及び実現化に向けた検討

サブプロジェクト

- a C会員企業と協業し、2024年度に実施したFS、並びにラボベースでの試験結果を基に、実機サイズの試験機を用いた試験を実施

アウトプット 処理廃水（安水）を発生させない、また即応性を有するARMSの実現を図る

- 進捗状況**
- a. 試験機の設計完了、製作開始
 - b. 試験設備を提供する企業との協議完了
 - c. 2026年度に試験を実施予定



5.3 2025年度事業の主な成果【技術開発G】

2) LNG用Type-Cタンクのクリーニング法の検討

目的 燃料タンクのリードタイムに影響を及ぼしている燃料タンク内部のクリーニング作業の省力化さらには自動化を図る（LNG燃料タンク）

サブプロジェクト

- a クリーニング作業のKey Factorとなる課題点の抽出
- b 極低温、低温に耐久性のあるプライマーの調査、開発に向けた協議
- c クリーニング省力化/自動化に向けた検討、クリーニング機器の開発に向けた協議



(株)新来島サノヤス造船のHPから

アウトプット ・除去不要な極低温に耐久性のあるプライマー
・クリーニング省力化/自動化の確立

進捗状況 a. 除去不要な耐冷プライマーの調査
b. 自動化/省力化ツールの調査



クリーンレーザージャパン(株)HPから

5.3 2025年度事業の主な成果【技術開発G】

3) アンモニア用Type-Cタンクの支持材の開発

目的 深冷タンク用断熱支持材として採用実績のあるプレスウッドの供給不足および納期遅延から、これに代わるLPブロック（フェノール樹脂積層板）などの採用に向けた調査および試験の実施

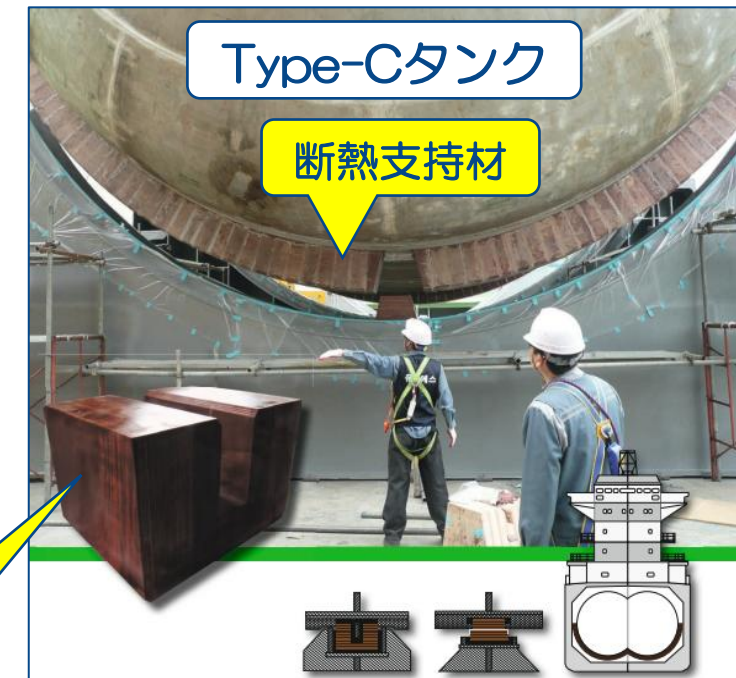
サブプロジェクト

- a 船級型式承認済の各種LPブロックについて、生産能力を含めた各種調査の実施
- b プレスウッドと各種LPブロックの性能比較を可能とする試験実施（化学分析、耐候性、せん断強度、熱伝道率、耐浸水、アンモニア浸漬、等）
- c 定量的な性能比較および評価の実施

アウトプット LPブロックの深冷タンク用断熱支持材としての採用

進捗状況

- a. 各種LPブロックの調査
- b. 性能評価試験の実施（耐候性については現在も試験中）



出典：Schmeing社 Webサイト
<https://www.dehonit.de/?lang=en>

5.4 2025年度成果の外部発信

1) 国際会議／各種委員会参加

会議名	参加者
IMO MEPC 83 [25年4月7日～11日]	首席研究員 華山伸一
ISO/TC 8/SC 3/WG 19 [25年6月9日～10日]	上席研究員 穂坂尚道
IMO MSC 110 [25年6月14日～28日]	首席研究員 華山伸一
IMO ISWG AF2 & CCC11 [25年9月1日～12日]	首席研究員 華山伸一 技術アドバイザー 小畑英郎
IMO MEPC ES.2 & ISWG GHG20 [10月14日～24日]	首席研究員 華山伸一
GESAMP EGCS TT [25年11月3日～7日]	首席研究員 華山伸一
GESAMP BWWG [25年12月8日～10日]	首席研究員 華山伸一
IMO SDC12 [26年1月19日～23日]	首席研究員 華山伸一
IMO PPR12 [26年2月9日～13日]	首席研究員 華山伸一
IMO MEPC 84 [26年4月27日～5月1日]	首席研究員 華山伸一

5.4 2025年度成果の外部発信

2) GSC成果発表履歴（一般向け）

【第10回GSCセミナー】 [7月9日(水) @海運倶楽部]

発表内容

- ① GSCの取組み。その背景と動機
常務理事 今出秀則
- ② ゼロエミ船はいつ頃投入すべき？
調査企画GL 水谷友基
- ③ アンモニア燃料船は成立するのか？
上席研究員 福井努
- ④ ゼロエミ船搭載機器に関する船用メーカーの取組み
技術開発GL 木戸川允彦

参加者：237名

アンケート回答（108名）：

非常に良かった＝73名、やや良かった＝31名、どちらとも言えない＝2名、あまり良くなかった＝2名



5.4 2025年度成果の外部発信

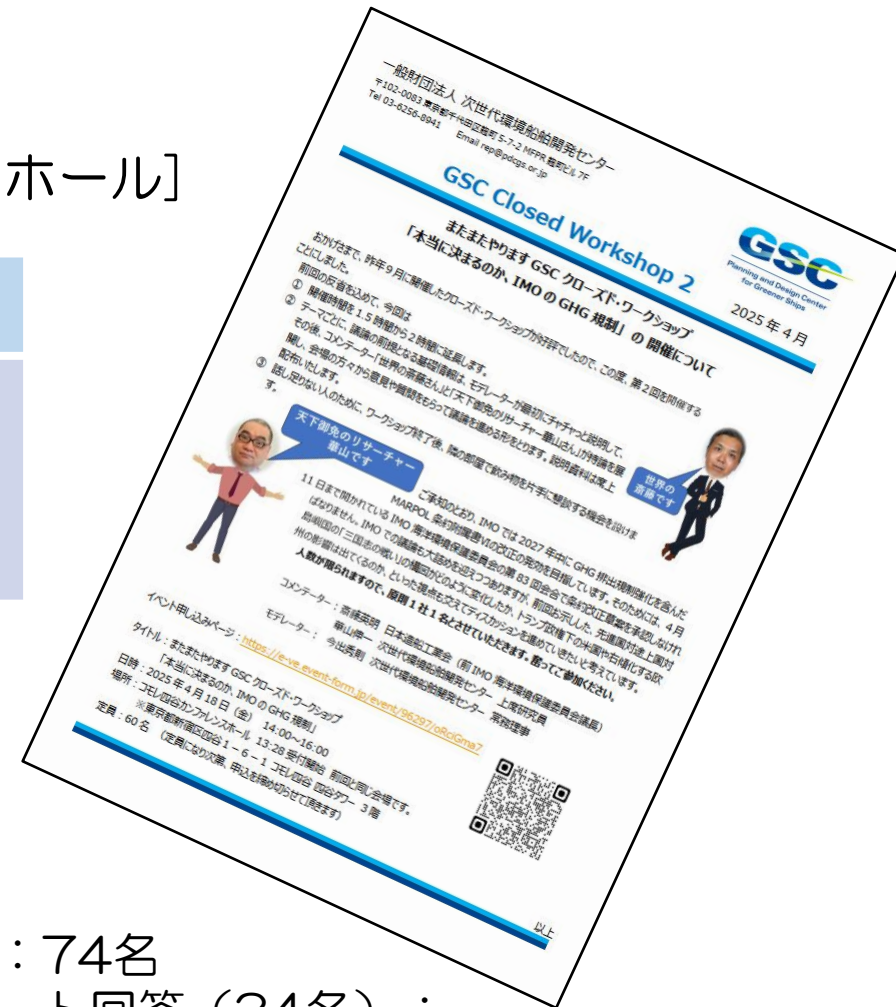
2) GSC成果発表履歴（一般向け）

【第2回GSCクローズドワークショップ】

[4月18日(金)@コモレ四谷カンファレンスホール]

発表内容

本当に始まるのか、IMOのGHG規制



参加者：74名

アンケート回答（34名）：

非常に良かった＝28名、やや良かった＝5名、
どちらとも言えない＝1名

5.4 2025年度成果の外部発信

2) GSC成果発表履歴（一般向け）

【第3回GSCクローズドワークショップ】

[10月31日(金)@コモレ四谷カンファレンスホール]

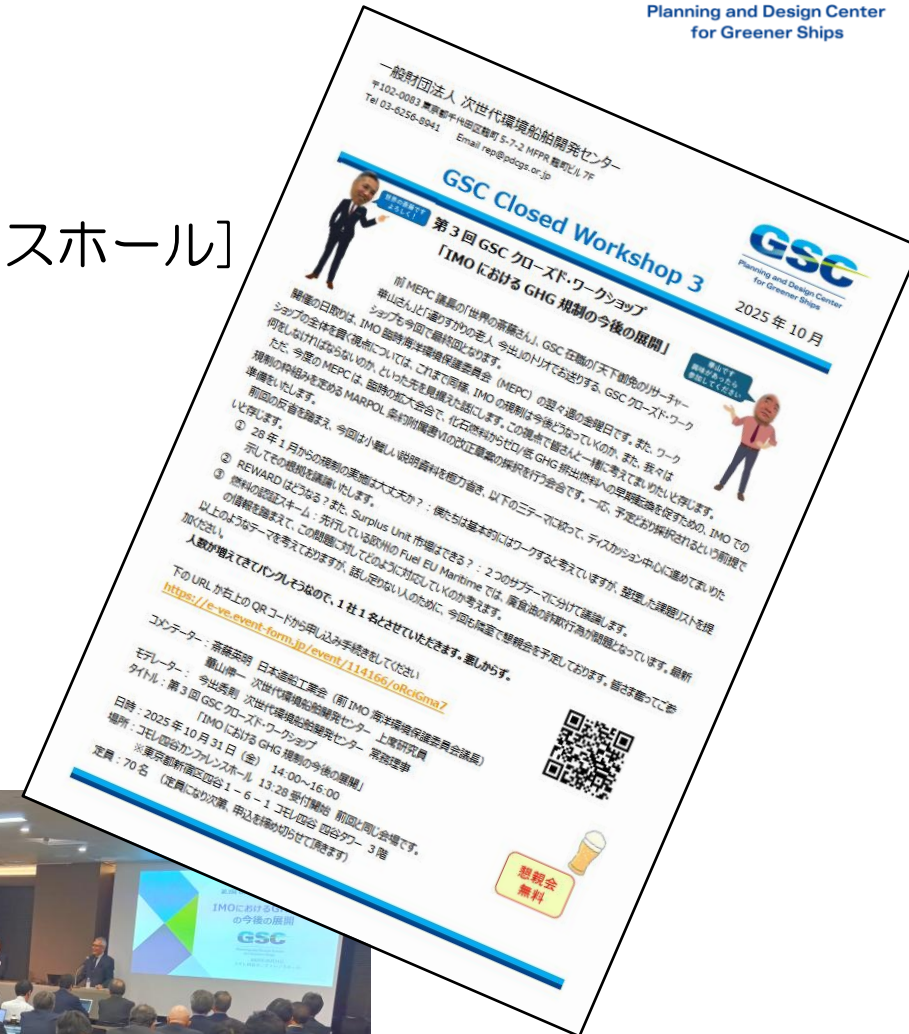
発表内容

IMOにおけるGHG規制の今後の展開

前IMO環境保護委員会議長の斎藤英明さんと華山伸一首席研究員との対談

10月17日に臨時海洋環境保護委員会でIMOのGHG排出規制の枠組みを決める条約の採択が延期された。この影響について、会場に参加された、燃料供給、海運、造船、船用工業のそれぞれの分野から意見をいただき、討論が行われた。

参加者：77名



5.4 2025年度成果の外部発信

2) GSC成果発表履歴（一般向け）

【第4回GSCクローズドワークショップ】

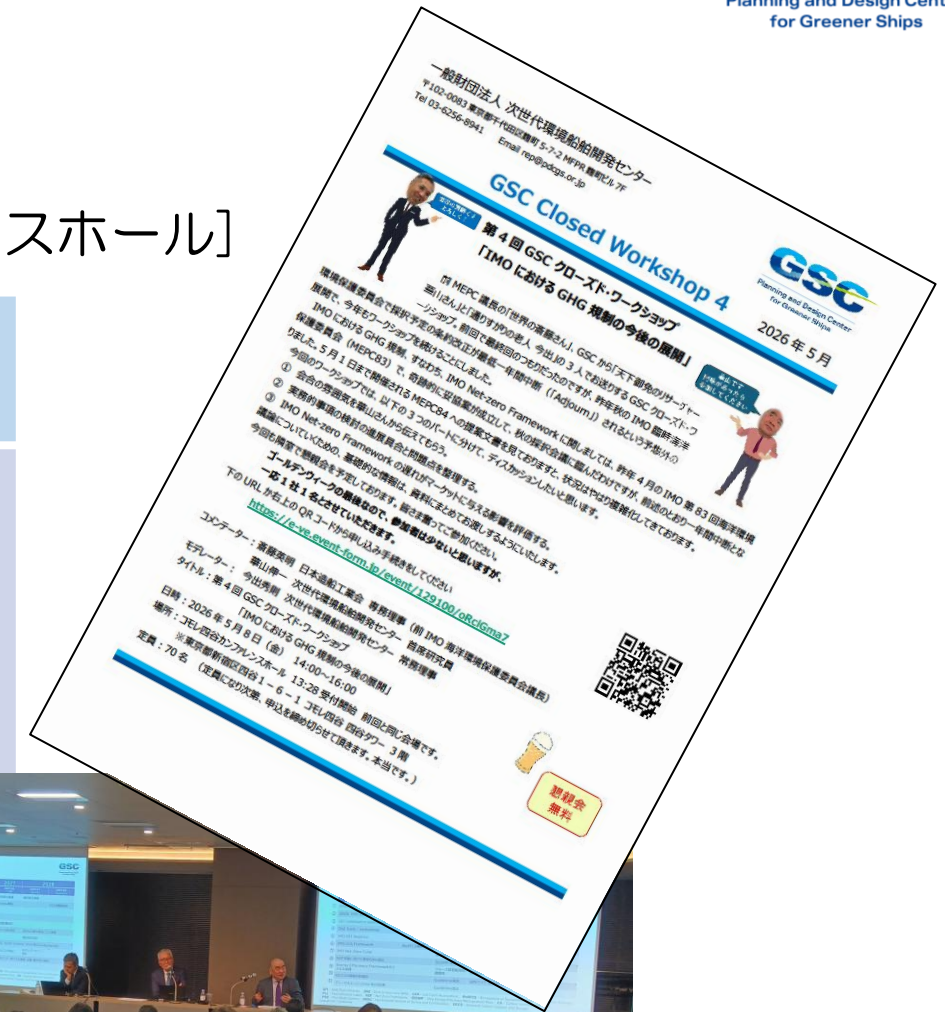
[5月8日(金)@コモレ四谷カンファレンスホール]

発表内容

IMOにおけるGHG規制の今後の展開 前IMO環境保護委員会議長の斎藤英明さんと華山 伸一首席研究員との対談

MEPC84では、IMOのGHG排出規制の枠組みに関する条約改正案について、各国間の隔たりが大きく、引き続き中間会合で議論を継続することとなった。この影響について、会場に参加された、燃料供給、海運、造船、船用工業のそれぞれの分野から意見をいただき、討論が行われた。

参加者：67名



5.4 2025年度成果の外部発信

2) GSC成果発表履歴（一般向け）

【第2回GSCフォーラム】[7月16日(水)@神戸 楠公会館]

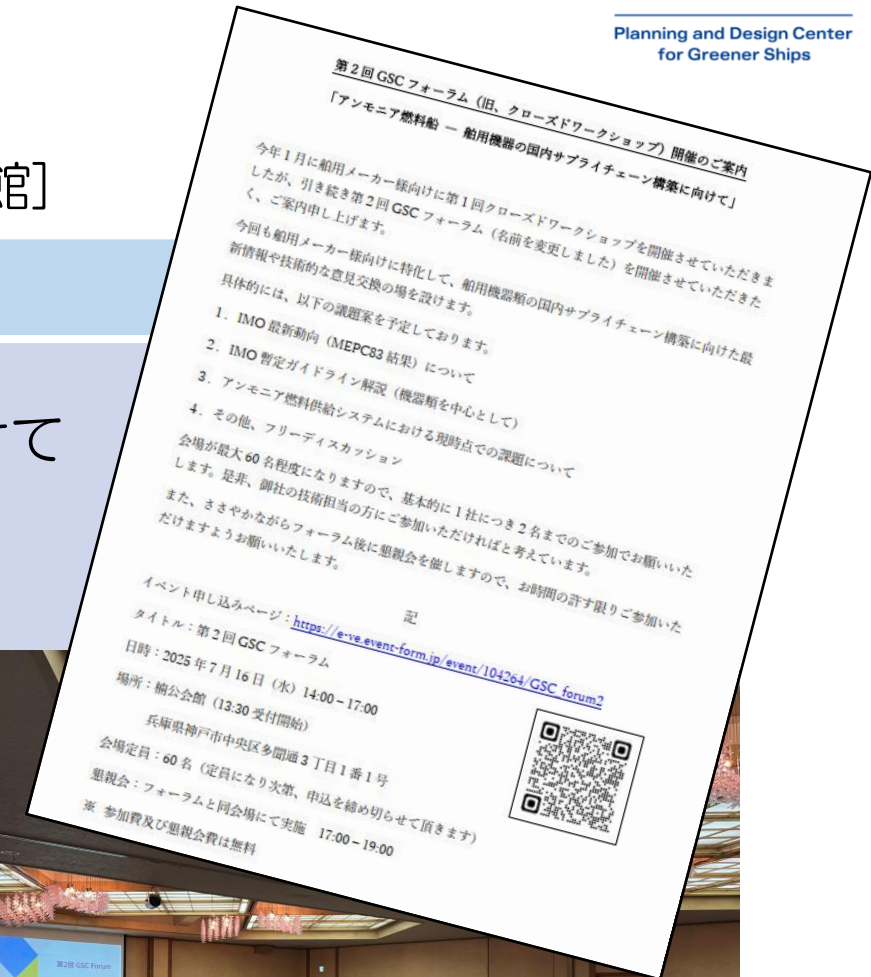
発表内容

船用メーカー様向け –

アンモニア燃料船 船用機器の国内サプライチェーン構築に向けて

- ① IMO最新動向（MEPC83結果）
技術開発G 木戸川 充彦
- ② IMO暫定ガイドライン解説（機器類を中心として）
技術開発G 津川 慎司
- ③ アンモニア燃料船の機関室3D設計
技術開発G 堺 泰文
- ④ その他、フリーディスカッション

参加者：65名



5.4 2025年度成果の外部発信

2) GSC成果発表履歴（一般向け）

【第3回GSCフォーラム】[11月17日(月)@APイノゲート大阪]

発表内容

船用メーカー様向け -

アンモニア燃料船—船用機器の国内サプライチェーン構築に向けて

① IMO MEPC臨時会合（採択会議）結果について
技術開発G 木戸川 充彦

② アンモニア燃料供給システムの自動化について
技術開発G 津川 慎司

③ 代替燃料船の燃料タンク仕様とその課題
技術開発G 堺 泰文

④ その他、フリーディスカッション

参加者：61名



5.4 2025年度成果の外部発信

2) GSC成果発表履歴（一般向け）

【外部会議での報告／発表】

発表内容	発表者
Argus Clean Ammonia Asia Conference 2025 [6月2日(月)～4日(水)@新宿国際ビル] セッション「海運の脱炭素化」（IMO規制と燃料転換）	首席研究員 華山伸一
IoS-OP講演会 [8月28(木)@CONCORDE HOTEL (Singapore)] 「Development of the Greener Ships towards Zero Emissions 」	上席研究員 荒井啓有
日本シippブローカーズ協会講演会 [9月2(火)@東京商工会議所] 「ゼロエミッション船の投資時期について」	常務理事 今出秀則
製鉄原料七洋会 [9月22日(月)@鉄鋼会館] 「新しい代替燃料に直面する日本造船業」	理事長 三島愼次郎

5.4 2025年度成果の外部発信

2) GSC成果発表履歴（一般向け）

【外部会議での報告／発表】

発表内容	発表者
海運集会所講演会 [11月10日(月)@日本海運集会所] 「代替燃料船の課題とその普及に向けた取組」	常務理事 今出秀則
Win-GD講演会 [11月11日(火)@AP日本橋] 「IMO-GFI Update and Developments in Marine Fuel Supply Hubs」	調査企画GL 水谷友基
Win-GD講演会 [11月14日(金)@今治国際ホテル] 「IMO-GFI Update and Developments in Marine Fuel Supply Hubs」	調査企画GL 水谷友基
中小造工講演会 [11月19日(水)@TKPガーデンシティPREMIUM広島駅] 環境負荷低減船の設計・建造・安全管理技術講習 国際規則や安全基準の理解と各種ガイドライン 新燃料船の船体設計の見通し	技術アドバイザー 小畑英郎

5.4 2025年度成果の外部発信

2) GSC成果発表履歴（一般向け）

【外部会議での報告／発表】

発表内容	発表者
テクノオーシャン講演会 [11月27日(木)@神戸国際展示場2号館] 「海運産業のゼロエミッション化について～これからの船用工業は何をすべきか～」	技術開発GL 木戸川允彦
IoS-OP講演会 [11月28日(金)@Regent Hotel VIP room (台北)] 「Development of the Greener Ships towards Zero Emissions」	上席研究員 堺泰文
第7回CFAAシンポジウム [2月3日(火)@一ツ橋ホール] GSC活動およびIMO・NZFの紹介	調査企画GL 水谷友基

5.4 2025年度成果の外部発信

2) GSC成果発表履歴（一般向け）

【外部会議での報告／発表】

発表内容	発表者
SEA JAPAN [2026年4月22(水)～24日(金)@東京ビッグサイト]	
① セミナー講演「100年に1度の大転換」 -海事燃料の未来とGSCの取り組み-	調査企画GL 水谷友基
② AiP(NK)授与式「IMO 独立型タンクタイプBの燃料タンクを備えたアンモニア焚きパナマックスバルクキャリア」	理事長 三島愼次郎
③ GSCブースでのパネル展示／GSC活動の紹介	GSC全員
④ アンモニア燃料パナマックスBCの機関室のVR体験	//
⑤ GSC紹介リーフレット＆ノベルティ（トートバッグ）配布	//

GSCセミナー



AiP授与式



VR体験



GSCトートバッグ

5.4 2025年度成果の外部発信

3) GSC成果発表履歴（大学向け）

【大学への出張講義】

大学	発表者
大阪大学 [11月26日(水)]	調査企画GL 水谷友基
大阪公立大学 [11月28日(金)]	調査企画GL 水谷友基
神戸大学 [12月1日(月)]	調査企画GL 水谷友基
横浜国立大学 [12月2日(火)]	調査企画GL 水谷友基
九州大学 [12月11日(木)]	技術開発GL 木戸川允彦



5.4 2025年度成果の外部発信

4) GSC成果発表履歴（会員向け）

【GSC会員向け定期報告会@Web】

発表内容	発表者
第12回定期報告会 [6月18日(水)] 1. アンモニア/メタノール Ready パナマックスBC 2. アンモニア燃料2000台クラス自動車運搬船	上席研究員 山田将平 常務理事 平松彩
第13回定期報告会 [9月17日(水)] 1. アンモニア燃料Panamax BC 機関室配置3D設計 2. アンモニア燃料Panamax BC 従来居住区配置の検討	上席研究員 堺泰文
第14回定期報告会 [12月17日(水)] 1. アンモニア燃料船 年間GHG強度値試算と環境性評価 2. OCCSを搭載した場合の最適設計の検討と環境・経済性の評価	常務理事 平松彩

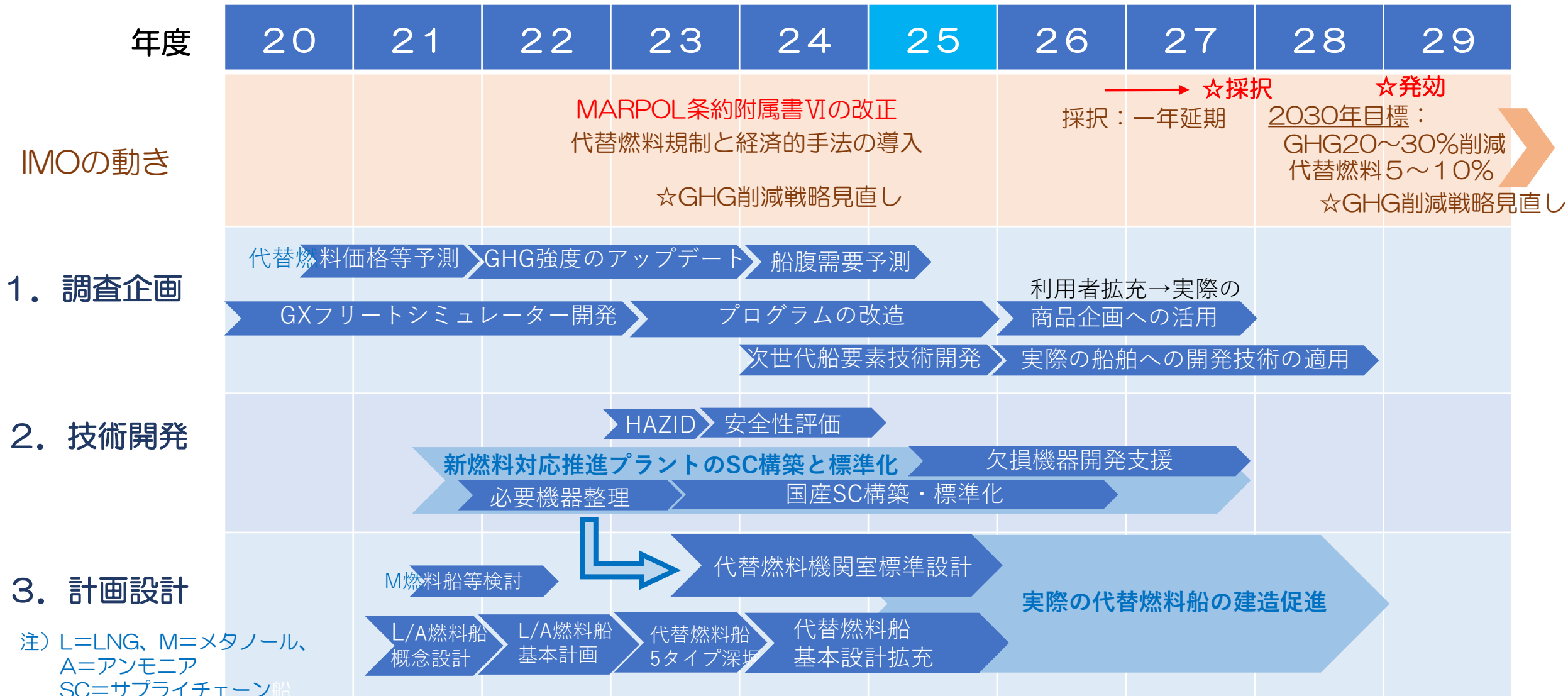
5.4 2025年度成果の外部発信

4) GSC成果発表履歴（会員向け）

【GSC会員向け定期報告会@Web】

発表内容	発表者
第15回定期報告会 [2月25日(水)] C会員（船用メーカー）様からのプレゼンテーション	① BEMAC株式会社 様 ② 株式会社中北製作所 様 ③ カナデビア株式会社 様
第16回定期報告会 [5月20日(水)] 1. アンモニア焚きPanamax BC（従来位置居住区）設計深掘り 2. デッキ置きType-B燃料タンクを備えたアンモニア焚きPanamax BCの検討 3. ClassNK機関室 安全増し（MRS）Notation適用検討	上席研究員 荒井 啓有 上席研究員 福井 努 上席研究員 高田 憲二

6. 中期事業ロードマップ



7.1 GSCガバナンス体制【評議員メンバー】

1. 主に外部有識者、関係業界の代表者等のメンバーで構成(現在14名)
2. 具体的な活動として、①理事や監事の選任及び解任、②常勤役員の報酬、③貸借対照表及び損益計算書の承認、④定款変更や財産処分等、重要事項の審議。

氏名	現在の役職	氏名	現在の役職
小林 健	日本商工会議所 会頭	田中 敬二	(一社) 日本中小型造船工業会 会長
栗飯原 周二	東京大学名誉教授	田中 誠一	(一財) 日本船舶技術研究協会 会長
畔津 昭彦	東海大学客員教授	辻 肇	アカー・シップ・パートナーズ (株) アドバイザー
伊藤 茂	(一財) 日本造船技術センター 前会長	長澤 仁志	(一財) 日本船主協会 会長
檜垣 幸人	(一社) 日本造船工業会 会長	橋本 州史	(株) 大島造船所 特別顧問
木下 和彦	(一社) 日本船用工業会 会長	藤久保 昌彦	大阪大学／広島大学 名誉教授
菅 勇人	(一財) 日本海事協会 会長	村木 茂	(一社) クリーン燃料アンモニア協会 前会長

7.2 GSCガバナンス体制【理事会メンバー】

1. 構成メンバーは、GSCの理事長（代表理事）、常務理事（業務執行理事）、海事産業関係分野の代表者等で構成（現在14名）
2. 具体的な活動は、①事業計画及び収支予算の承認、②事業報告及び財務諸表の承認、③執行の監督、④評議員会への報告や意見提出、⑤GSCの活動に関わる重要な事項の決定。

理事会役割	氏名	現所属
理事会議長	富士原 康一	（一財） 日本海事協会 顧問
理事長(常勤)	北村徹	
常務理事(常勤)	今出 秀則	
常務理事(常勤)	平松 彩	
監事	宮倉 正行	（一財） 日本海事協会 元 常務理事

7.2 GSCガバナンス体制【理事会メンバー】（前頁から続く）

氏名	現所属	氏名	現所属
朝戸 毅	ジャパン マリンユナイテッド（株） 常務取締役 常務執行役員	川島 健	（株）ジャパンエンジンコーポレーション 代表取締役 社長
池田 真吾	川崎汽船（株） 執行役員	川中 幸一	（株）商船三井 常務執行役員
上田 伸	三菱造船（株） 取締役社長	田中 一郎	（株）三井E&S 取締役
鹿島 伸治	日本郵船（株） アドバイザー	村山 英晶	東京大学 教授
加藤 光一	（一財） 日船舶技術研究協会 専務 理事	宮武 宜史	（一財） 日本海事協会 副会長

7.3 GSCガバナンス体制【運営幹事会メンバー】

1. 構成メンバーは、S会員及びA会員の技術・設計部門責任者とGSC関係者で構成
2. 具体的な活動は、GSCの事業に関わる①具体的な企画、②計画立案、③組織化を審議する。

氏名	現所属	氏名	現所属
藤田 均	今治造船株式会社 専務取締役	山元 康博	(株)名村造船所 設計本部 技師長
手塚 雄一	(株)大島造船所 取締役 設計本部 副本部長 基本設計部長	松永 昌樹	一般財団法人 日本海事協会 常務理事 技術本部長
小畑 訓男	尾道造船(株) 常務取締役	武田 信玄	三菱造船(株) 執行役員CTO マリンエンジニアリングセンター長
高平 智明	ジャパン マリンユナイテッド(株) 常務執行役員 技術開発本部長	加賀 正人	内海造船(株) 設計本部長 兼 基本設計部長
田中 義雄	(株)新来島どっく 取締役 特別顧問		

8. GSC会員会社一覧（2026年5月20日現在）

区分	会社数	会社名
S会員	3	ジヤパソマリソナリティッド(株)、三菱造船(株)、(一財)日本海事協会
A会員	6	今治造船(株)、(株)大島造船所、尾道造船(株)、(株)新来島どつく、内海造船(株)、(株)名村造船所
B会員	3	浅川造船(株)、新来島サハ入造船(株)、住友重機械マリソングニアリソグ(株)
C会員	30	(株)アイソ、潮冷熱(株)、(株)オーケイム、(株)大阪ボイラー製作所、(株)カソワテック、神奈川機器工業(株)、カデビア(株)、(株)キッツ、坂本工業(株)、(株)サソフルム、JRCS(株)、(株)ジヤパソングソコホレーショソ、大晃ホールディングス(株)、ダイハツインファニアス(株)、大洋電機(株)、(株)帝国機械製作所、東京計器(株)、徳機(株)、(株)中北製作所、新倉工業(株)、BEMAC(株)、(株)日本ハ化ート、ポルカノ(株)、三浦工業(株)、(株)三井E&S、三菱化工機(株)、ムサソノ機器(株)、ヤソマパワーソリューション(株)、理研計器(株)、ワールドバルブ(株)
賛助会員	6	出光タカ一(株)、伊藤忠商事(株)、NSソナリティッド海運(株)、トヨソグ海運(株)、(株)ソグトランスコホレーショソ、(株)富洋海運
合計	48	

(注) S会員、A会員、B会員は、造船所と船級協会、C会員は船用機器メーカー、賛助会員は、商社／海運会社／他

GSCのミッション

- 日本の造船産業が蓄積した知見を糾合
- 中長期的な環境船舶(GHG排出削減船)の技術的・経済的可能性を評価
- 世界に先んじて、様々な環境関連技術を統合した最先端の船舶を企画・具体化



一般財団法人次世代環境船舶開発センター
〒102-0083
東京都千代田区麹町5-7-2 MFPR麹町ビル7階
Tel : 03-6256-8941
Email : rep@pdcgs.or.jp

End of Presentation